



# THE TASTE OF PARISIAN ELEGANCE

2台のピアノの午後

エレガンス・パリ

後援 MUSIK FABRIK MUSIC PUBLISHING

TWO PIANOS PERFORMED BY

**TETSU MASHIKO**

AND

**MASAKI NISHIHARA**

21 MARCH 2006 (TUE) 15H00

PIANO ART SALON, TSUKISHIMA TOKYO

PRESENTED BY OFFICE PCC

## 第一部

### 1. フランソワ・ペトリーニ FRANÇOIS PETRINI [1744-1819]

二重奏曲 第2番 作品30

DEUXIEME DUO OP.30

I. ALLEGRO

II. RONDO

肌を刺すような冬の寒さは少しずつ薄らぎ、心浮き立つ季節が到来しています。春分の日午後のひととき、パリのエスプリと粋の凝縮した音楽をとり揃えて皆さまにご紹介します。…「この町にいと、歴史にとりまかれている感じがするが、そのために息がつまるわけではない。あきほどの過去をもちながら空気はかるやかだ。我々の祖先は、我々が自由に息のできる程度の美をここに閉じこめたのだ。これほどの包容力をもちながら、同時にこれほど圧迫感を与えない風格をそなえた都会はあるまい。ついでながらいと、パリが全世界の『故郷を失えるもの』、ツルゲーネフからオスカー・ワイルドに至る精神上の亡命者の愛する故郷となった所以、またかれらが騒々しい都会のただなかで孤立の思索家として生きる可能性をパリに見出した所以は、おそらくこの点にあるだろう」(ノエル・ヌウェット「パリ」から)…このようなパリの魅力を、今日は音楽を通して皆さまにご実感いただこうと思います。

フランス音楽の本当の魅力とは、気取らなさ、さりげなさ、率直な語り口にあります。18世紀から21世紀までの名曲を、順を追ってご紹介します。まず、1790年代のパリ、革命期のはつらつとした息吹を今日に伝えるデュエットで、コンサートは幕を開けます。ペトリーニはイタリア系の血を引くハープ奏者ですが、大革命前後のパリで活躍しました。アンサンブルの名手でもあり、当時の瓦版には、大きな式典で、盟友ナーデルマンとの2台ハープの演奏を披露して華を添えた、といった記事が見えます。爽快な春の訪れそのもののような明るい曲想です。

### 2. アドルフ・アダン ADOLPHE ADAM [1803-56]

歌劇「ロンジュモーの御者」名曲集 (ボクサ編曲)

THE FAVORITE AIRS IN THE OPERA OF « LE POSTILLON DE  
LONGJUMEAU », ARRANGED BY R. N. C. BOCHSA

I. INTRODUCTION, CHORUS & AIR "MON PETIT MARI"

II. "MES AMIS ECOUTEZ L'HISTOIRE" & "STRETTA OF THE TRIO"

III. CAVATINA "JE VAIS DONC LE REVOIR"

「ジゼル」といえば、今日でもチャイコフスキーの三大バレエに匹敵する上演頻度を誇り、バレエ界の不朽の古典名作として広く知られています。「ジゼル」の作曲者アドルフ・アダンは、19世紀半ばに精力的に活躍したフランスのオペラ作曲家です。師匠であるボワエルデューの軽快な作風を継承し、さらりとしたロマン性を盛り込んだ作風を得意としました。1836年にオペラ・コミック座で初演された「ロンジュモーの御者」はアダンの成功作の一つです。広く庶民に親しまれていたことは、当時の風俗を写した文豪バルザックの「従妹ベット」からも明らかです。主人公シャプルーを演ずるテノール歌手は、当時の美男子の代名詞でした。第2曲「友よ、物語を聞け」は、テノールの名ナンバーとしてしばしば単独でも歌われます。ここでは、ボクサの手による魅力的な編曲版をお届けします。

3. テオドール・ラバール  
THEODORE LABARRE [1805-70]

オーベールの「王冠のダイヤモンド」による二重奏曲 作品119  
DUO SUR L'OPERA D'AUBER « LES DIAMANS DE LA COURONNE » OP.119

パリのオペラ座に面した「オーベール通り」、オペラ座最寄りの高速地下鉄「オーベール駅」の由来となっている、ダニエル＝フランソワ＝エスプリ・オーベールは、「パリジャンの中のパリジャン」と謳われた、19世紀フランスを代表するオペラ作曲家の一人です。オーベールの代表作「フラ・ディアボロ」は、日本でも大正時代に浅草オペラで大ヒットを記録しましたから、私たち日本人にとってもえにし浅からぬ作曲家ということになります。かたや、テオドール・ラバールは、本名をテオドール・ベリーといい、名門ベリー公爵家の御曹司として生まれ、かのナポレオン三世皇帝の乳兄弟として育てられました。青年時代にはハープの名手として欧州全域で活躍し、後年はパリに戻って、皇帝の意向を汲む高位の行政官として辣腕をふるいました。ここで聴きいただく二重奏曲は、オーベールとラバール、この二人の生粋のパリジャンの洗練された感覚が贅沢に融合したものといえるでしょう。名作家スクリーブの台本で、1841年にオペラ・コミック座で初演された「王冠のダイヤモンド」は、オーベールの数多い成功作の一つで、軽快な旋律と流れるような優雅さがきわだっています。香り高いフランスオペラらしい、あかぬけたお洒落な雰囲気をお届けできればと思います。



アダム  
A. ADAM



ラバール  
TH. LABARRE



オーベール  
D.-F.-E. AUBER



デュボワ  
P.-M. DUBOIS

## 第二部

### 4. ピエール＝マックス・デュボワ PIERRE-MAX DUBOIS [1930-95]

大道芸人の情景

IMPRESSIONS FORAINES POUR DEUX PIANOS [1953]

- |                          |           |
|--------------------------|-----------|
| I. OUVERTURE             | 序曲        |
| II. LE FILEUR DE VERRE   | ガラスの糸紡ぎ人  |
| III. LE DANSEUR DE CORDE | ロープ使いダンサー |
| IV. VALSE FINALE         | 終曲 ワルツ    |

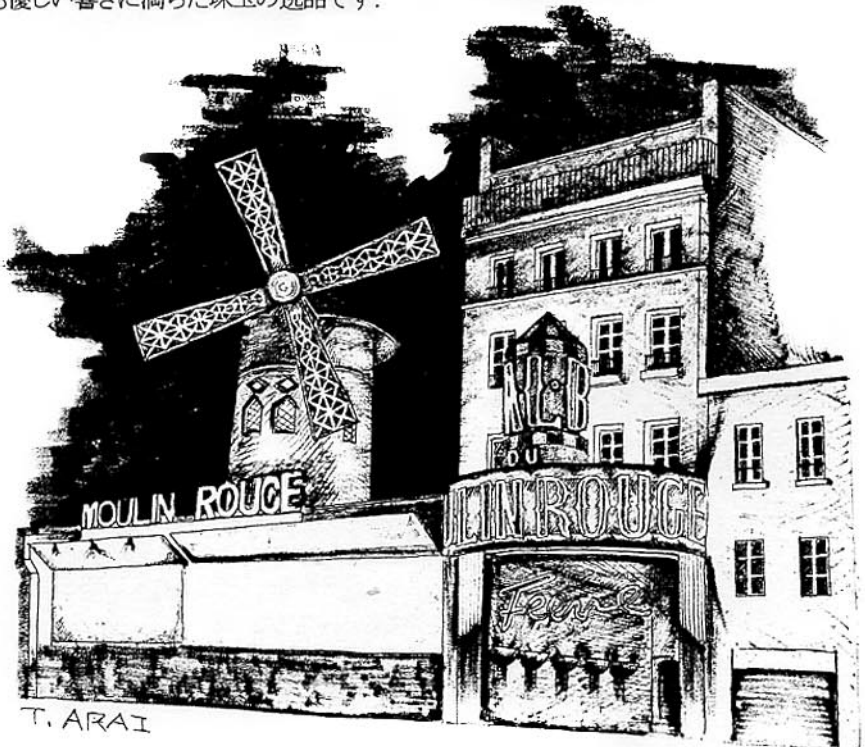
長く培われてきたフランス音楽の美質は、現代の作曲家にも着実に受け継がれています。プログラムの後半は、現代感覚にあふれた魅力的な音楽をお届けします。ピエール＝マックス・デュボワは、ダリウス・ミヨーに師事した作曲家で、娯楽味に富む作風を得意としました。颯爽とした現代感覚にあふれるデュボワの音楽は、耳を心地よく刺激します。

### 5. ジェラルール・ムニエ GÉRARD MEUNIER [1928-]

[A] DARK DREAMING BLUES [1984]

[B] POEME POUR L'AMÉE [2004]

ジェラルール・ムニエ氏は、現在もご壮健で活躍中の作曲家で、ご父君の画家リュシアン・ムニエはじめ、芸術家を多く輩出した家系に生まれました。氏の作風は洗練された現代的和声感覚、柔和なメロディラインを特徴とし、印象派やジャズからの影響も随所に見られます。ここでご紹介する2作品は、いずれも優しい響きに満ちた珠玉の逸品です。



6. ジェルメーン・タイユフェール  
GERMAINE TAILLEFERRE [1892-1983]

コラル変奏曲

CHORAL ET VARIATIONS [1979] < WORLD PREMIERE PERFORMANCE >

|                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| PROLOGUE            | 序章              |
| VAR. 1. SARABANDE   | サラバンド           |
| VAR. 2. LE CROUILLI | ル・クルーイ(クープラン風に) |
| VAR. 3. SCARLATINO  | スカルラッティ風に       |
| VAR. 4. PASTOURELLE | 田園曲             |
| VAR. 5. ARIETTE     | アリエット           |
| VAR. 6. MENUET      | メヌエット           |
| VAR. 7. RIGODON     | リゴドン            |
| EPILOGUE            | 終章              |

私たちがこの美しい音楽と出会ったのは、2005年秋のことです。ミュージック・ファブリック社(フランス)の新刊楽譜を偶然手にし、試演した私たちは、ニュアンスに富む、豊かな音響世界に魅了されました。簡潔ですっきりとした譜面から、魔法のように美しい響きが織り出されるのです。さらに、驚く事実が知らされました。私たちがこの作品をとりあげる今回のコンサートをファブリック社に伝えたところ、この作品が公開の場で演奏されるのは、これが世界で最初の機会となろう、というのです。

ジェルメーン・タイユフェールの名は、1920年代に世界を席巻した「フランス六人組」の紅一点のメンバーとして広く知られています。タイユフェールの音楽の美点については、ジャン・コクトーの評「耳のマリー・ローランサン」、ストラヴィンスキーの評「誠実な音楽」、この二人の鬼才の言葉をご紹介しますれば、もはや充分でしょう。流れるように美しい音楽が、自然体で淡々と語りかけてきます。タイユフェールは、各界の錚々たる著名な文化人と広く交友を持ったいっぽうで、私生活では、実父との相克、二度の結婚と不幸な破局、娘の非行、晩年まで続いた経済苦など、波風の多い人生を歩んだ人でした。一人の女性作曲家の辿った稀有な軌跡には、今日、多くの研究家が関心を寄せるに至っています。

「コラル変奏曲」について、ファブリック社のポール・ウェアー・ジュ氏にご教示いただいた情報をご紹介します。…この作品は、1979年、タイユフェール87歳という最晩年に、フランス文化省の委嘱により作曲されたが、2005年に初めて手稿譜が発見されるまで、タイユフェールの友人デジレ・ドンデーヌ氏の私物に紛れていたこと。変奏曲形式の作品としては彼女の唯一のものであること。孫娘のエルヴィールが音楽学校で習ってきた「コラル」の形式に触発され、タイユフェールが彼女好みのバロック風の舞曲をまじえた組曲に仕立てたこと。学習者に各種の舞曲様式を学ばせる、という意味で、「教育的エッセイ」という副題さえついていたが、この作品の内容は、そうした次元をはるかに超えたすぐれたものであること。管弦楽版はごく最近初演されたが、2台ピアノ版はこれまで公開演奏されたことがないこと…

「プロローグ」で呈示されたアンニュイな主題は、後に続く変奏の随所に巧みに織り込まれ、全体に、タイユフェールの最も得意とする、擬古典・擬バロック的な、古雅な趣きを漂わせています。傑作として広く親しまれている「弦楽四重奏曲」や「ハーブソナタ」にも匹敵する名品が新たに発見された、と言っても少しも言い過ぎにはならないでしょう。そして、2台ピアノの名曲の宝庫であるフランス音楽に、また一つ素晴らしいレパートリーが加わったということが、私たちに二重の喜びをもたらします。初演を担う光栄よりも強く私たちの心をとらえるもの、それは、年齢に関係なく瑞々しい感受性を保ち続け、これほど素敵な音楽をさらりと書いてみせる一人のパリジェンヌの心意気です。4つの世紀にわたる名曲の数々は、はからずも春の訪れを待っていたかのようなタイミングで私たちのもとにつどって来ました。皆さまにくつろぎのひとときをお届けできますよう、丁寧に演奏致したいと思います。

\*演奏者紹介\* PIANISTS

益子 徹 (第一ピアノ) 1976年栃木県生まれ。宇都宮大学卒業。  
TETSU MASHIKO 北英国王立音楽院 (RNCM) ピアノ伴奏科修了。  
西原 昌樹 (第二ピアノ) 1972年岡山県生まれ。上智大学卒業。  
MASAKI NISHIHARA

\* お問い合わせは 090-8443-3927 川崎 に。 e-mail は pccpiano@hotmail.com に。

\* ウェブサイトを開設致しております。 <http://www16.ocn.ne.jp/~pccpiano/>  
コンサートの情報等、随時更新してお知らせ致しております。どうぞご覧ください。

\* コンサート記録 \* OUR CONCERT HISTORY

- 2001年2月24日 板橋区民会館小ホール 2台のピアノの夕べ <サン＝サーンス(I)とダマーズ><SAINT-SAENS ET J.-M. DAMASE>  
ダマーズ:ソナチネ、パストラール、トッカータと終曲、サン＝サーンス:アルジェリア組曲、前奏曲とサラバンド、ヴィクトル・ユゴーへの賛歌
- 2001年6月2日 トモノホール(市ヶ谷) 2台のピアノの夕べ <セミクラシック(I)とサン＝サーンス(II)>  
<DEMI-CLASSIQUE ET ST.-SAENS> コール・ポーター・モドレー、ナザレー:コンフィデンス・アス,  
R. R. ベネット:組曲、サン＝サーンス:アラブ綺想曲、ロマンス、ヘラクレスの青年時代
- 2001年10月13日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<アングロサクソンとサン＝サーンス(III)>  
<ANGLETERRE ET ST.-SAENS> A. ローリー:組曲、R. V. ウィリアムズ:グリーンズリープス幻想曲,  
H. ブレイク:舞曲集、サン＝サーンス:春はきたりて、交響曲第1番(2台ピアノ版)
- 2001年11月24日 榎坂スタジオ クレメンティ生誕250年に向けて<PRE-250TH ANNIVERSARY OF MUZIO CLEMENTI> 連弾ソナタ OP.3-3, OP.14-3, 独奏ソナタ OP.24-2, 打楽器伴奏付ワルツ OP.39 より
- 2002年1月6日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの午後 <セミクラシック(II)とサン＝サーンス(IV)>  
<DEMI-CLASSIQUE ET ST.-SAENS> A. オハーン:主題とジャズ変奏曲、ギロック:パリ2題、アストル・ピアソラ・モドレー、サン＝サーンス:前奏曲とフーガ op.99-1, パッパ・グノー:アヴェマリア、グノー(サン＝サーンス編):協奏的組曲(本邦初演)
- 2002年3月17日 新宿文化センター小ホール《原 智恵子さんを偲んで》昭和25年の演奏会の曲目による2台ピアノの夕べ  
<IN THE MEMORY OF MADAME CHIEKO HARA DE CASSADO> モーツァルト:2台のピアノのためのソナタK448, サン＝サーンス:ベートーヴェンの主題による変奏曲、シャブリエ:3つのロマンティックなワルツ
- 2002年5月11日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<パリとウィーン(I)><PARIS & VIENNA> ブーリ:子守歌とロンド,  
バダレイ:小さな鐘、サン＝サーンス:糸杉と月桂樹、シューベルト:6つのレントラー、メヌエット二長調、モーツァルト:ハフナー・セレナードより
- 2002年7月14日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<パリとウィーン(II)><PARIS AND VIENNA>  
モーツァルト:ラルゲットとアレグロ、シューベルト:ピアノソナタ 長調 D.664(独奏:益子徹)、サン＝サーンス:序奏とロンド・カプリチオーソ(トビュッシ編曲版)、メヌエット変奏長調、グノー(サン＝サーンス編):協奏的組曲(再演)
- 2002年9月7日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ <リチャード・ロジャース生誕100年> <THE CENTENNIAL OF RICHARD RODGERS> ロジャース:ドレミの歌、トリプル:The Garter Mother's Lullaby, The Green Bough, ヘンバジミ:ジャマイカ・ソルバ、ジャマイカ・ソルバ, R. R. ベネット:組曲、ロジャース&ハート、オハーン:主題とジャズ変奏曲、H. ブレイク:舞曲集
- 2002年11月10日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<パリとウィーン(III)><PARIS AND VIENNA>  
ロシュロール:ワルツ、ダントロ:幻想的ワルツ、トメ:飾らぬ告白、ギロック:シャンパン・トッカータ(2台8手),  
ダマーズ:ソナチネ、ブラームス:5つのワルツ、モーツァルト:ソナタK. 448
- 2003年1月18日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<イギリスとフランス><ENGLAND & FRANCE>  
ローリー:5つの抒情小品と練習曲、ブリテン:カンツォネッタ、トリプル:3つの小品、グレインジャー:収穫の賛歌(2台8手)、ピエルネ:おもちゃの兵隊の行進(2台8手)、ダマーズ:トッカータ、パッサカイユと終曲、ホエルマン:ノートルダムの祈り、サン＝サーンス:ヴィクトル・ユゴー賛
- 2003年3月21日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<地中海から南米へ><AN IMAGINATIVE TRIP TO SUL-AMERICA> ローレム:シシリエンヌ、サン＝サーンス:アルジェリア組曲、ロベス=ブチャルド:夜曲、ロンガス:ホタ・アラゴネーゼ、グアスタビーノ:パイレシート、鳩のあやまち、ピント:子供の情景、ミニョーネ:ヴァルサ・ショーロ第8,10番、サンバ・リトミコ
- 2003年4月19日 新宿文化センター小ホール <アレクサンドル・タンスマンの世界 I>  
<DEDICATION TO ALEXANDRE TANSMAN> 子どもの魂(6手用、ジャン・クラ作曲),  
以下全てタンスマン作品:ピアノを弾く若者第1、2巻(連弾)、ブルースの形式による前奏曲、<友人のアルバム>より(以上独奏)、カーニバル組曲、シュトラウスのワルツによる幻想曲(以上2台)、アンコール/黒人の少年(独奏)
- 2003年8月15日 新宿角筈区民ホール <真夏の夜の2台ピアノコンサート第一夜 フランス音楽をめぐる旅> <MIDSUMMER EVENING CONCERT I> サン＝サーンス:白鳥、シャブリエ:3つのロマンティックなワルツ、ケクラン:2台ピアノのための組曲作品6,  
ダマーズ:誕生日の挨拶、ロジェ・ブーリ:おしゃれ泥棒(6手)、アーネン:2台ピアノのためのワルツ集<ほどけたリボン>(抜粋)
- 2003年8月16日 新宿角筈区民ホール <真夏の夜の2台ピアノコンサート第二夜 セミ・クラシック> <MIDSUMMER EVENING CONCERT II> ケルビー:ペルシャの市場にて、ヘンバジミ:ジャマイカの2つのストリート・ソング、ウォーカー:ルンバ、シャル＝アンリ:Blowing Blues, 生まれたばかりの王女のバグナー、3たす3(子供のジャズ)、タンスマン:大西洋横断ソナチネ、コール・ポーター・モドレー、R.R.ベネット:丘を越えて、夜はやさしく、組曲、アンコール/ギロック:小さなすずめ—ピアノに捧ぐ(6手)

- 2003年9月7日 新宿文化センター小ホール <アレクサンドル・タンスマンの世界 II>  
 <ALEXANDRE TANSMAN ET NOUS> ラヴェル(テデスコ編):亡き王女の薔のババース、ストラヴィンスキー:タンゴ、  
 ジャン・クラ:子供の魂(6手)、カサド:愛の言葉。以下、全てタンスマン作品:ピアノを弾く若者第3巻(連弾)、間奏曲集より  
 (独奏)、マズルカ(ピアノ独奏版)、大都会(2台)、ポーランド狂詩曲(2台)、アンコール/日光の嘆き
- 2003年12月17日 横浜栄区民センター リリス <2台ピアノ クリスマスコンサート—バロックからポップスまで>  
 <TWO-PIANO CHRISTMAS CONCERT> バッハ=グノー:アヴェマリア、バッハ:主よ人の望みの喜びよ、モーツァルト:  
 ラルゲットとアレグロ、グノー(サン=サーンス編曲):協奏的組曲、オハーン:主題とジャズ変奏曲、クリスマスソング選(戦場  
 のメリークリスマス、そりすべり、きよこの夜)、タンスマン:カーニバル組曲
- 2004年1月28日 横浜港南区民文化センター ひまわりの郷 <雲のない日の子守歌—レイナルド・アーンの世界>  
 <Berceuses des jours sans nuages—La musique de REYNALDO AHN> 7つの子守歌、ライネックの歌による可愛い変奏曲、アイ  
 ルランド民謡に基づく前奏曲(以上連弾)、メランコリックな奇想曲、傷病兵に捧ぐ、ワルツ集<ほどけたりポン>全曲(以上2台)
- 2004年4月7日(マチネ) 横浜港南区民文化センター ひまわりの郷 <アルデンヌの山羊と狼—ケクランとシュミット>  
 <Le chevre et le loup des Ardennes—KOECHLIN ET SCHMITT> ケクラン:小品集作品208より(ソロ)、組曲作品6(2台)、  
 組曲作品19(連弾)、シュミット:子供たち(ソロ)、5つの音で(連弾)、旅の数葉(連弾)、ラブソディ作品53(2台)
- 2004年4月7日(ソワレ) 横浜港南区民文化センター ひまわりの郷 <アレクサンドル・タンスマンの世界 III>  
 <A TRIBUTE TO ALEXANDRE TANSMAN> ピアノを弾く若者(抜粋・ソロ)、イスラエル紀行(ソロ)、即興曲(クラ作曲・ソ  
 ロ)、ママのために弾きましょう(連弾)、4つの小品(連弾)、大西洋横断ソナチネ(2台)、新カーニバル組曲(2台)
- 2004年8月14日 横浜港南区民文化センター ひまわりの郷 <フランス音楽アラカルト> <A LA CARTE OF THE FRENCH  
 MUSIC FOR TWO PIANOS> カサドシュ:バリ解放の歌、トルニエ:4つの前奏曲、トメ:4つの無言歌(飾らぬ告白、ウク  
 ライナの伝説、まぼろし、月の光)、ボエルマン:対話的幻想曲、ルニエ:シャルランヌの松、シャミナード:3つの小品(アン  
 ダンテ、小スケルツォ、朝)、タイユフェール:「小舟が一艘ありました」、メル・ボニ:2台のピアノのための変奏曲
- 2004年9月4日 池田サロン(横浜市) <欧州音楽紀行・晩夏に贈る名曲の花束> <EUROPEAN MUSICAL PROMENADE,  
 LATE SUMMER CONCERT> アレンスキー:カノン形式の組曲(第5組曲)、マルチヌー:ドゥバーク(チェコ舞曲第2番)、  
 カステルヌオーヴォ=テデスコ「デュオ・ピアノズ」、インファンテ:スペインの音楽、ゴドフスキー:なつかしいウィーン、ブ  
 ランク:エレジー、ミヨー:組曲「夢」、ローリー:2台のピアノのための組曲、トリンブル:序奏とエアー
- 2004年12月26日 マイスベースアスピア(渋谷区) <ブラジル音楽紀行> <Tardo dos Dois Pianos Relato da Musica Brasileira>  
 ナザレ=ミニョーネ:ドゥ・ドゥ、打明け、がんばれカキニョ、カキニョ何故泣くの、青の上の金、サンベッキ、ミニョーネ:農園の奥で、コンガ  
 ーダ、エンリケ=ミニョーネ:マラジョー島のワルツ、キジハ、ボイ・ブンバ、クレーゲル:4手の為のソナタ、ニャターリ:ブラジリアーナ第8番、  
 アブレウ=ミニョーネ:チョコ・チョコ・ノ・フバー、埃を立てて、散ったバラ、町のスルル、ホウセンカ、リンドイアの午後、海よりも愛す
- 2005年4月9日 マイスベースアスピア(渋谷区) <フランス宮廷へのいざない> <MUSIQUE DE COUR PAR DEUX PIANOS>  
 ナデルマン:モーツァルトの「フィガロの結婚」の歌曲による変奏曲、クルムホルツ:二重奏曲第1番へ長調、カルドン:3つの小二重奏、  
 ボクサ:モーツァルトの「魔笛」の歌曲による変奏曲、ジャグン:序奏とロンド・バスターール、ボワエルデュー:二重奏曲第2番(初版)
- 2005年7月16日 ピアノアートサロン(中央区月島) <欧州古典音楽紀行> <CLASSICAL GEMS FOR TWO PIANOS>  
 クレメンティ:2台のピアノのためのソナタ作品1(補遺)、シュタイベルト:タンバリン伴奏つき喜遊曲集より、クラーマー:二重奏曲作品24、  
 デュセック:二重奏曲作品38、ボワエルデュー:二重奏曲第1番へ長調
- 2005年8月6日 ピアノアートサロン(中央区月島) <倫敦音楽祭> <An Imaginary Music Festival in London in Mid-19th Century>  
 クレメンティ:2台のピアノのためのソナタ作品12、ソフィア・デュセック(デュセック夫人):序奏と「ああ、お母さん聞いて」による変奏曲、  
 同:二重奏曲変奏へ長調、オリビア・デュセック:「ルール・ブリタニア」による二重奏曲、ボクサ:グランド・デュエット へ長調、同:「殖生の宿」  
 の変奏付き 歌劇「ケリ」の旋律による華麗な二重奏曲
- 2005年9月3日 ピアノアートサロン(中央区月島) <ナポレオンとの邂逅> <Rendezvous with Napoleon Bonaparte>  
 ボクサ:序奏とグランド・マーチ、ボワエルデュー:二重奏曲第3番 ボロネーズ付き、ジャグン:序奏とアルザス風ロンド、デュセック:デュ  
 オ・コンセルタント変奏へ長調作品69第1
- 2005年10月1日 ピアノアートサロン(中央区月島) <秋のブラハ> <Reflection of Autumn Prague>  
 クルムホルツ:二重奏曲第2番、デュセック:デュオ・コンセルタント変奏へ長調作品69第2、ボクサ:ボヘミア民謡集(ボヘミア修道士会愛唱  
 歌集)、マルチヌー:一本の指で(3本の手のために)、同:2台のピアノのための即興曲、同:2台のピアノのための3つのチェコ舞曲
- 2005年11月5日 ピアノアートサロン(中央区月島) <パリの晩秋> <Autumnal Recollection of Paris>  
 ボクサ:フランス行進曲、同:「眠れたいという人」による優美な夜曲、ラバール:ロッシニの「泥棒カササギ」による二重奏曲、ボワエルデ  
 ユ:モーツァルトの「魔笛」フィガロの結婚「ドン・ジョバンニ」によるポプリ、デュセック:デュオ・コンセルタントへ長調作品69第3
- 2005年12月11日 ピアノアートサロン(中央区月島) <世界音楽紀行> <Exploring the World Music>  
 五木の子守唄(熊本県民謡/モルナール編)、弘田龍太郎:柳、同:おうちの子猫、三善晃:唱歌の四季、ボクサ:世界音楽紀行、同:チロル  
 民謡による二重奏曲、同:スコットランド民謡による華麗な二重奏曲、グランジャーニ:二つのデュエット作品26
- 2005年12月25日 ピアノアートサロン(中央区月島) <郷愁のロシア> <Russian Sounds of Evocations>  
 ボクサ:クレムリン、ボワエルデュー:二重奏曲第2番(第2版)、キュー:夜想曲 op.69-2、グレチニ:7:詩曲 op.18-1、グリエール:6つの小品 op.41、ロ  
 ーゼンブラット:タンゴ、チェルニニ:2つのバガテル(op.5)、ロンドニ長調 op.87a、メネル:ロシア人・ラウンドダンス op.58-1
- 2006年1月29日 ピアノアートサロン(中央区月島) <欧州ロマン音楽紀行> <Romantic Anthology for Two Pianos>  
 ライネック:アンダンテと変奏 作品6、ベルリニ(ボクサ編曲):歌劇「ノルマ」名曲集、ボクサ:ジュディン・バスター夫人の英国さよなら公  
 演、ショパン:2台のピアノのためのロンド へ長調 作品73、アレンスキー:2台のピアノのための組曲第3番 作品33 <変奏曲>





GERMAINE TAILLEFERRE

[1892-1983]

SPECIAL THANKS TO :

Monsieur PAUL WEHAGE

Madame ELVIRE DE RUDDER (The heir to G. Tailleferre)

AND

MUSIK FABRIK MUSIC PUBLISHING